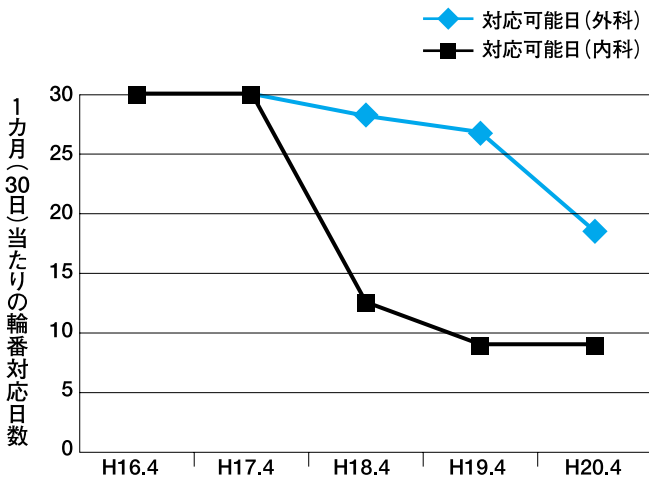


1市2町 地域医療センター構想について 町議会で補正予算案が否決

悪化している山武地域の救急医療

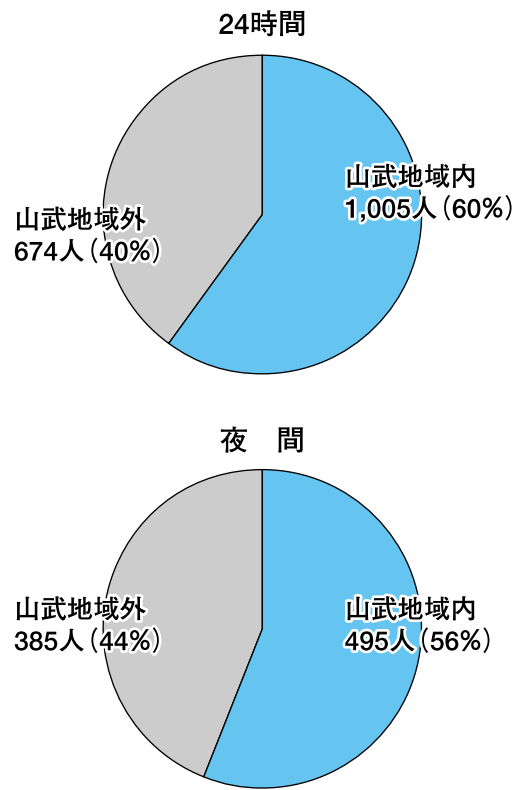
今年2月、山武郡市広域行政組合（山武郡市の6市町）で取り組んできた九十九里地域医療センター計画は白紙となり、救急をはじめとした医療の確保が急がれることから、東金市、九十九里町の1市2町による新たな医療センター構想を模索してきました。しかし、計画づくりに向けた準備経費の補正予算案が6月定例町議会で否決となり、新たな展開が求められることとなりました。

図1 山武郡市内病院の夜間2次救急輪番状況



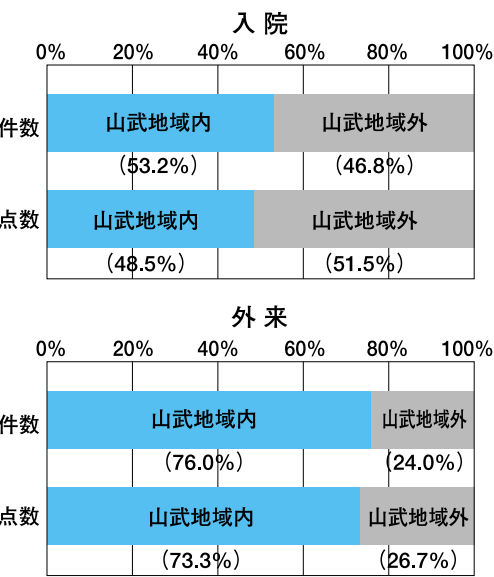
資料提供 山武郡市広域行政組合医療福祉センター

図2 大網白里町民の救急搬送先(平成19年)



資料提供 山武郡市広域行政組合消防本部

図3 山武地域外の医療機関への依存状況



※平成17年5月分 国保診療報酬明細書から集計

医療現場の過剰な負担に加えて、平成16年度から始まった医師の新臨床研修制度で、医師が自由に研修先を選べるようになったことで、地方病院に若手医師が集まりにくくなり、山武地域内では十分な医療が確保できていません。東金病院・成東病院・大網病院の医師数は、平成16年4月時点では72人でしたが、現在は49人にまで減少していま

地域医療は地域で

県では、県立病院を全県対応の約半数、外来の約4分の1が山武地域外の病院にかかっており、地域内で十分な医療が受けられない状況となっています(図3)。

町議会では、「千葉大学の協力は原動力になる」、「計画づくりの議論を進めるべき」

山武地域では医療が完結できない

入院の約半数、外来の約4分の1が山武地域外の病院にかかっており、地域内で十分な医療が受けられない状況となっています(図3)。

九十九里地域医療センター計画は平成20年2月、センター長の権限の問題で6市町間で意見の一致がみられず、計画推進に向けた協議の継続が困難となり、断念されました。しかし、昨年度の町民アンケートでは、救急を含めた医療体制の充実を望む声が最も高くなっていること、以前にも増して悪化している医療環境は放置できない状態であることから、救急や小児医療などを含め医療水準の底上げを図り、安心できる住環境をつくること、東金市、大網白里

補正予算案は否決・特別委員会を設置

東金市議会と九十九里町議会で、先行して既に可決された。最後となる大網白里町議会での審議が、6月13日に行われ、否決されました。

新たな構想へ

その協議組織の内容を検討する準備会と事務局を設置する経費として、3市町合計で164万7千円(本町は3分の1にあたる54万9千円)を、補正予算案として議会に提案しました。

6月議会に補正予算案を提案

計画づくりにあたって、まず、関係者による協議組織をつくり、病院の機能や規模、事業費、設置場所や運営主体などを検討し、1市2町で運営していかれるのか、具体的に議論していく予定でした。

これまでの経過

年月日	内容
平成20年	
2月15日	(仮称)九十九里地域医療センター計画を断念
2月26日	東金市長、大網白里町長、九十九里町長が知事と面談 ・計画断念後の今後の方向性について県に相談
3月24日	1市2町議会から、県に意見書を提出
3月27日	東金市長、大網白里町長、九十九里町長が知事と面談 ・新しい医療センターへの取り組みに対し、県の支援を要請
4月16日	知事と関係3市町(首長・正副議長) 県議の面談
5月12日	千葉大学医学部教授会 ・平澤名誉教授をセンター長候補者に承認・決定
5月26日	1市2町地域医療センター検討準備会合 知事より平澤センター長候補者の紹介があり、併せて医療センターの必要性、今後のスケジュールなどについて意見交換
6月6日	九十九里町6月定例町議会(補正予算案可決)
6月10日	東金市6月定例市議会(補正予算案可決)
6月13日	大網白里町6月定例町議会(採決) ・検討準備会並びに事務局経費に係る補正予算案を追加提案するも、採決の結果、賛成8反対11で否決 ・医療問題に関する特別委員会を設置

由に深く支援と協力

病院建設・運営には、多額の費用が必要であり、県の支援が不可欠となります。県からは、市町の負担が今以上に増えないよう、最大限の財政支援を検討すること、職員派遣等人的支援を行うこと、医療センターができるまで東金病院・大網病院の医師確保に努めることなど、6項目の支援内容が示されていました。

1市2町での議論は困難に

補正予算案の否決により、今後、1市2町地域医療センターの議論を進めることはできない状態となっています。しかしながら、この地域の救急をはじめとする医療の確保は、喫緊の課題です。今後は、町議会特別委員会での議論を見守るとともに、住民の皆さま、議会、医療関係者も含めて積極的な議論をし、子どもから高齢者までが真に求めている医療を作り上げていくことが必要です。

問健康介護課 ☎0332